

(様式4)

【さつま町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

近年の教育改革においては、学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が強く求められています。この変革を実現する上で、ICT環境は必要不可欠な基盤であり、これまで培ってきた教育実践とICTを最適に組み合わせることで、教育の質の飛躍的な向上を目指す必要があります。

本町が抱える喫緊の教育課題である「学力向上」と「不登校対策」の解決に向けて、ICTの有効活用は極めて重要な鍵となります。同時に、予測困難な未来を生き抜く子どもたちにとって不可欠な「情報活用能力」を育成するための学びの充実を図ることは、本町の重要な教育目標です。

さらに、ICTを活用した「協働的な学び」は、子どもたち同士が深く関わり合い、多様な意見を交換する中で、自身の考えを多角的に深める機会を提供します。探究的な学習や体験活動においては、子ども同士のみならず、多様な他者との協働を通じて、社会性や協調性を育むことができます。

このような学びを通して、本町の子どもたちが、他者の意見や立場を理解し共感する「共感力」、自身と異なる考えや価値観を尊重し協働する「多様性の理解」、そして自らの能力や価値を認め自信を持つ「自己肯定感」といった、これからの社会で求められる重要な資質・能力を育むことを目指します。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想第1期は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す近年の教育改革において、ICT環境が不可欠であるという認識のもと、全国の学校で1人1台端末の整備を中心に急速に進められました。これは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を強力に後押しするものです。

本町においても、このGIGAスクール構想を機に、ICTの有効活用を教育活動の根幹に据え、長年の課題であった学力向上と不登校対策への取組を加速させてきました。同時に、変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに必要な情報活用能力を育成するための学びの充実を図ることを重要な目標としています。

1人1台端末を活用した協働的な学びは、子どもたちが多様な意見に触れ、自身の考えを深める機会を創出します。探究的な学習や体験活動を通じて、他者との協働を経験することで、社会性や協調性といった、これからの社会で求められる資質・能力を育むことが期待されます。

3. 1人1台端末の利活用方策

本町では、令和7年度の端末更新を機に、各学校及び関係課が連携し、より効率的な運用が期待できるOSを選定するなど、ICT環境の一層の充実を図り、以下の3つの方策を中心に1人1台端末の効果的な利活用を推進します。

第一に、1人1台端末の積極的な活用を促進します。これまで実施してきたICT活用研修に加え、教育委員会指導主事が各学校の個別課題に応じた研修や指導助言を強化します。また、ICT支援員の継続的な派遣により、現場の教員をサポートし、端末の日常的な活用を支援します。

第二に、個別最適化された学びと協働的な学びの一体化を図ります。児童生徒が端末を主体的に活用し、「調べる・まとめる・発表する」といった一連の学習活動や、学び合いを通じた深い理解を促す授業展開を支援するため、具体的な活用事例を積極的に情報提供します。これにより、一人ひとりの興味関心や進捗に応じた学びと、多様な他者との協働による学びの質を高めます。

第三に、全ての児童生徒への学びの保障を強化します。不登校や障がいのある児童生徒など、特別な支援を必要とする子どもたちに対して、学習支援ツールをはじめとするICTを活用することで、自宅等でも学習に取り組める環境を提供し、学習機会の確保を図ります。これにより、誰一人取り残さない教育の実現を目指します。

これらの利活用方策を推進することで、ICT環境を最大限に活かし、本町の教育課題である学力向上、不登校対策に資するとともに、子どもたちの情報活用能力を育成し、未来社会を生き抜く力を育ててまいります。